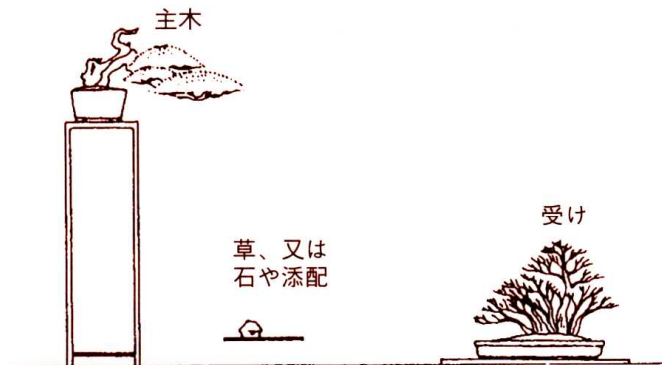


小品盆栽の飾りと楽しみ方

小品盆栽の飾りは何点かの取り合わせによる美しさです。お互いに引き立て合い総合美を発揮するのが小品盆栽特有の飾り方でもあり魅力です。

しかし、数多くの小品盆栽を羅列するのではなく、主になる物を引き立て活かすことに気を使い、空間の美しさと個々の清潔さ・全体の品位を表現し自分の意とする飾りを行いましょう。

平飾り(三点飾り・床飾り)の場合



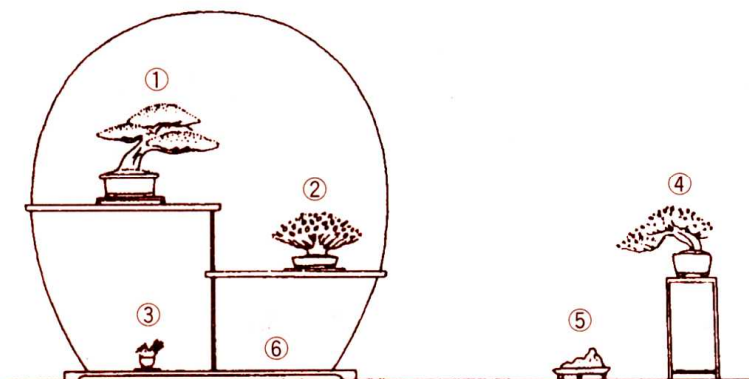
主木が右に流れる樹形を用いた場合は、受けとなる方は主木の方向に向かう物とするのが良い。(流れを互いが受け止める方が安定感がある。)

…受けの物は、株立ち・寄せ植えなどの多幹の盆栽が合うでしょう。



主木が単幹の場合は受けになる樹は、双幹またはそれ以上の多幹の盆栽が良いでしょう。(主木が多幹の場合はこの反対が良い。)

丸卓の飾りの場合



①の場合に使用する盆栽は、斜幹か半懸崖等が良く合いこの卓の場合は動きのある(軽妙な)樹形が合います。

②の場所に使用する盆栽は、①の樹の受けになるので樹高の低い盆栽または遠山石・滝石・溜まり石等でも合います。

③の場所に使用する盆栽は、狭いので小さな季節の草または石・添配などが好ましい。

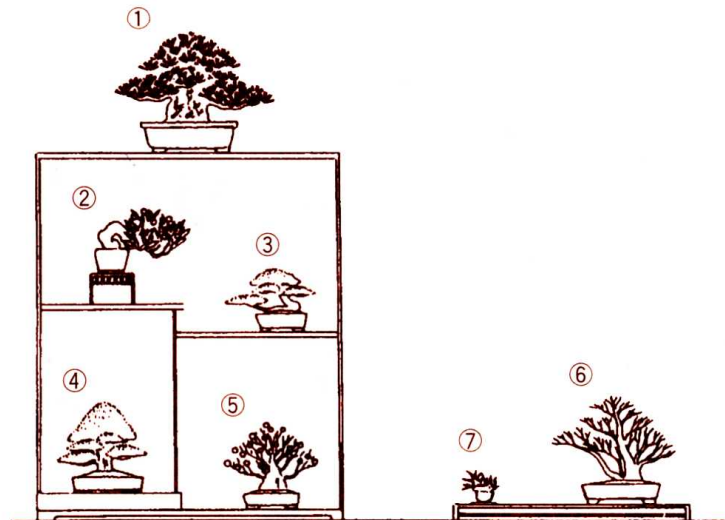
④の場所に使用する盆栽は、半懸崖または斜幹が良く合い、場所によっては株立ちなどでも良い。

⑤の場所に使用する盆栽は、他の物との調和をとる為、石・草・添配などが好ましい。

⑥の場所に物を置くとくどくなるので必要ない。

棚飾りの場合

…棚飾りの場合は樹を多く使う為に卓の大きさと盆栽の大きさに注意し、卓に対して盆栽が大きくなり過ぎたり小さくなり過ぎない事・同じ種類の樹が重複しない事。また、鉢に対しても色や型に気を配り同じような物は避けたい。



①の場合に使用する盆栽は、樹高が低く、模様木が好ましく、力強く端正な樹形が良いでしょう。

例えば…黒松・杜松・五葉松・真柏などが一般的ですが、雑木類であっても前記の様な樹形なら良いでしょう。

②の場合に使用する盆栽は、少し軽い感じがする軽妙な動きのある物、半懸崖または吹き流し・斜幹などです。

例えば…梅もどき・きんず・もみじ等の実物や雑木類と松柏類（軽妙な動きがある物）でも良いでしょう。

③の場合に使用する盆栽は、樹高の低い盆栽で②に対して受けになる物です。②が単幹ならば双幹以上の樹が良いでしょう。

例えば…くちなし・ちりめんかざら・杜松など

④の場所は、直幹や立ち模様の樹形が良く、杉・杜松・檜で小さい芽の樹が良いでしょう。または、草・石などでも好ましい。

⑤の場所は、低い所なのでどっしりした樹形・または株立ちなどでも良い。

例えば…楓・皐月・黒松・梅もどきなどがある。

⑥の場所は、棚全体を受けるので少し大きく、強い感じがする樹形で樹の流れは棚に向かった方が良い。

⑦の場所は、草・石・添配などで全体のバランスをとるのに重要な役割をする。吟味して良い品物を使用したい。

…小品盆栽は今や若年層から女性に至るまで愛好者を急激に広めつつあります。

その魅力は何か？それは小品盆栽が掌上盆栽とも言われ、比較的安価で購入でき、狭いスペースでも培養する事ができ、小さいながらも四季それぞれの風情や大自然の情景を手軽に飾って楽しむことができる事です。

また、その神髄を極めたい人にとっても果てしなく魅了するだけの要素を備えているところでしょう。盆栽は屋外の棚上で育てる楽しみと、玄関や床の間など屋内に飾って楽しむ事が出来ます。観葉植物などは、植物そのものの美しさを観賞するのですが、盆栽はそれに加えて大自然の情趣を感じ取れるもので、特に小品盆栽は手軽に飾って身近に自然を楽しむ事が出来ます。より小さくすることによってより大きな思いを描ける事ができるのです。